

# おきたま米づくり情報 No.1

平成 29 年 3 月 13 日

JA山形おきたま  
オールやまがた米づくり日本一運動  
置賜地域本部実践班

**いよいよ平成 29 年の米づくりが始まります。**

**「安全・安心」、「おいしい」米づくりで産地評価をアップしよう**

## ●平成 28 年産米は作柄も食味も良好！

平成 28 年産米の置賜の作柄は 104(605 kg)の「やや良」、一等米比率も 95.8% (1 月末現在：JA山形おきたま)と良好な結果となりました。また、置賜産「つや姫」の玄米タンパクは平均が 6.4% (乾物換算)で、平成 27 年産と比べて 0.2%低く、食味は良好でした。

## ●「土づくり」で、収量・食味の向上を！

置賜地域の土壌分析結果では、「pH」と「ケイ酸」が基準より下回っていました。「pH」が低下すると、土壌中の微生物数が減少し有機物の分解が遅れ、田んぼがワキやすくなり、生育が抑制されてしまいます。もう一度基本に立ち返り「土づくり」に取り組み、万全の態勢で春作業をスタートさせましょう。

## 種子の予措

1. 塩水選 ～丈夫な苗づくりは、よい種子から～

- 塩水を作る際の比重は、**うるち 1.13、もち 1.08**で行います。
- 塩水選後は、きれいな水でよく洗いましょう。

	比重	水 10 l 当り食塩の量(kg)
うるち	1.13	2.1
もち	1.08	1.3

2. 種子消毒

- 薬剤処理の場合は、必ず使用方法（希釈倍数、使用時期、使用方法）を確認しましょう。  
**薬液の温度が極端に低いと効果が下がる**場合があります。10℃以上の水温を確保しましょう。
- 温湯浸法の場合は、58℃20 分間又は 60℃15 分間で行います。**古い種子やもち品種は行わないように**しましょう。温湯処理が終わったら、直ぐに冷水で冷やした後、水漬けします。
- 水漬けまで期間があるときは、一度、水分を十分に切り乾燥させ、冷暗所で保管します。

3. 水漬け ～温度計で確認を！！～

- 水温は **10～15℃**とし、**10～12 日間程度**行います。**積算水温で 120℃**を確保しましょう。  
播種日から逆算して水漬けを始めます。必ず温度計を設置し、水温を確認しましょう。
- 2～3 日毎に水交換を行い、袋の位置（上下）を入れ替えて吸水ムラを防止します。

4. 催芽

- 催芽は、**30～32℃**で **20 時間**を目安とし、ハト胸状態を確認してから終了しましょう。

## 播 種

- 苗の種類ごとに育苗期間が異なります。
- 育苗期間が長すぎると苗が老化するため、**田植えに合わせて播種日を決めましょう。**
- 10a 当たりに必要な苗箱数は、稚苗で 25 箱、中苗で 30 箱が目安です。

【作業時期の目安：5月20日田植えの場合】

苗の種類	育苗期間	水漬け日	催芽日	播種日 (乾籾重/箱)
稚苗	20～25日	4月12日	4月24日	4月25日 (150～180g/箱)
中苗	30～35日	4月2日	4月14日	4月15日 (80～120g/箱)

## ばか苗対策

- 前年ばか苗病が多発した場合には、今年も注意が必要です。
- 育苗ハウス内や資材をきれいにし、**稲ワラやモミ殻は必ず撤去**しましょう。
- **水漬け温度が 15℃を超えると発生を助長する場合がありますので**、水温に気を付けます。

## 本田の準備

### 1. 稲わらの分解促進

- 稲わらの分解を促進するため、融雪後は排水溝を掘るなどして、田面の乾燥を図りましょう。

### 2. 美味しい米づくりは、「土づくり」から

- 堆肥などの有機物を適正に使用しましょう。
- 土づくり肥料の積極的な散布に心掛けましょう。

近年の土壌分析ではpHが低く、ケイ酸が不足気味です。石灰資材やケイ酸資材を積極的に施用しましょう。

- 根圏耕土層の改善（耕深 15cm を確保しましょう。）

## STOP！農作業事故！

**休息をしっかりと取り、安全を十分確認して、  
計画的に作業を行いましょ！**

やまがたアグリネット「あぐりん」アクセス！

<http://agrin.jp//>

米づくり情報等技術対策の他、気象情報、病害虫等の  
情報がいち早く得られます。



～農薬を使用する際は使用基準を再確認！その都度記帳！～